



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第1884号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL (055) 976-6351 FAX 976-6352
例会場 静岡県三島市本町14-31 みしまプラザホテル
TEL (055) 972-2122
会長 渡辺 雅晃 幹事 黒田 一



広重版画より 三島 朝霧

第1947回例会

2012.9.13晴

司 会

前田博利君

ロータリーソング

「我等の生業」
指揮 瀬川幸信君

会長挨拶

会長 渡邊雅晃君

職業奉仕の私の解釈

自分の仕事にプロ意識を持つことでないでしょうか。例えば医者や弁護士、その他の専門職の人は依頼人から絶対的信頼を得ること、下請け企業も同じです、発注者の信頼を裏切らないことだと思います。専門職なら泣いてありがたいございました、とお礼言わせる仕事ぶり、下請けなら納期、数量は何が有っても守る、当然のことだと思いますがはたして如何でしょう。

人は皆馴れることによってお座成りになります、そして自分を外側から見ることを忘れます。私は時々水を見に行きます、海、川、湖、そして考えます。このままで良いのか悪いのかを、言い訳をしないだろうか？もしそうだとしたら素直に反省すべきです。仕事を通して社会貢献するのであれば当然のことですが時には立ち止まって自分を見直す時間を作っても決して損ではありません、もちろん堅く考えすぎることはありません。能天気も大事な生き方だと思います、が利益追求ばかり考えていると社会奉仕にはならないでしょう。時にはこの人の為なら一肌脱ぐか、という潔さが必要です。

職業奉仕はロータリアンにとって永遠のテーマだと考えます。私はこんな風に考えますがさあ如何でしょう。...

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修正出席率
前々回	37/46	80.43%	40/46	86.96%
今回	40/50	80.00%	会員総数	54名

欠席者 石井(良)君、亥角君、勝間田君、鈴木(正)君、登崎君、花房君、原君、藤江君、古川君、矢岸君

幹事報告

幹事 黒田 一君

- ①先週、柴崎ロータリー財団米山委員長より説明がありました米山記念館の秋季例大祭が9月15日(土)午後2時より行われますので、会員の方でご都合の付く方は、是非御出席をお願い致します。尚当日は、高野ガバナーも見えられるそうです。
- ②10月6日(土)に第2回新会員研修会が、山梨県甲府にて行われますが、新会員の皆様には本日案内をお渡し致しましたので、是非御出席をして頂きたいと思います。申込は幹事まで。
- ③8月31日の高野ガバナー公式訪問の時にクラブ計画及び目標、の職業分類表の大分類、中分類、小分類がありますが、三島西さんは、5ページを使っているが、会員数から見ても多すぎるのではないかと指摘をされましたので、次年度までには、削減の検討に入りたいと思います。

2012～2013年度
国際ロータリー会長
田中 作次

奉仕を通じて平和を

おめでとう

会員誕生日 柳田君
結婚記念日 佐々木君

スマイルボックス

- ◆石井(彰)君、先日は亡き父、石井茂の通夜並びに告別式にご会葬頂き誠にありがとうございました。お陰様で無事父を見送ることができました。生前中は大変お世話になり厚くお礼申し上げます。ありがとう御座いました。
- ◆橋本君、雇用均等行政の推進に協力があつたとして厚生労働大臣より感謝状をいただきました。
- ◆室伏君、娘のところへ息抜きのつもりで夏休みで行って来ました。孫に引きづり回されて疲れて帰国しました。

ROTARY NEWS

震災から立ち上がる日本を支援するために

福島原子力発電所近くの町では、避難のため人々が退去し、ウシやイヌが街をさまよい歩いています。建物の上にあるバスや車は、2011年3月11日の東北沿岸部を襲った津波に打ち寄せられたものです。がれきで景観は損なわれています。

ロータリー財団管理委員および、東日本震災復興基金日本委員会委員長の小沢一彦氏は、被災地でロータリー主導の奉仕活動について話すとき、彼が感じている重苦しさに顔は曇ります。新たに現実問題に取り組むためには、自分自身が楽観的にならなくてはなりません、と小沢氏は述べます。

被災者の多くが精神的な困難を抱えていますが、それらの人々を支援するため、ロータリアンのプロジェクトが立ち上げられました。最初のうちは、食料、テント、衣料など緊急を要する必需品中心の支援の申し出に資金の拠出をしました、と小沢氏は話します。時間

がたつにつれ活動は、物質的支援から精神的支援へと変わっていきました。親を亡くした子どもたちが気持ちの安らぎを見つけるようカウンセラーを派遣したり、図書館を開設したりしました。「私たちは被災地の人たちが落ち込んでいることを知りました。中には自殺を考えた人もいました。彼らは希望を失っていたのです」

東日本震災復興基金へは、寄付の受付最終日の2012年6月30日までに約800万ドルの寄付が集まりました。その内のおよそ100万ドルは、震災直後の救援プロジェクトを行うためのマッチング・グラントに使用されました。この基金は、2011年7月1日から小沢氏が委員長を務める東日本復興基金日本委員会で管理され、160を超えるプロジェクトを支援してきました。

震災復興基金は、プロジェクト費用の25%をまかなっており、残りの費用はクラブや地区に責任があります。同基金が支援した活動による経済効果は、3,200万ドルにもなるだろうと小沢氏は予想しています（海外の姉妹クラブ、姉妹地区は独自にプロジェクトに資金拠出しています）。復興委員会の6人の委員は、すべて国内のロータリアンで、会議費、旅費など自己負担で行っています。プロジェクトでは、学校に放射線測定器などを贈ったり、津波で倉庫が倒壊し、保存していた水産物が腐敗してしまった市場にハエ防止の網戸を設置したりしています。ロータリアンは病院に医療器具、支援物資を運んだり、がれきを撤去したり、移手段のための車輛を購入しました。

ロータリアンはまた、新しいトラクター、温室、乳牛を寄贈することで、被災した人たちが仕事に戻れるよう支援しました。経営者の人たちへは事業の復興計画を立てられるように仮設の商工会議所をつくりました。流されてしまった漁網の寄贈を受けた漁師の人たちは大変喜んでくださり、最初に獲れた魚をボランティアをしていたロータリアンに振舞ってくれた、と小沢氏は話します。「このような例は枚挙にいとまがありません」

日本のロータリーでは、伝統的に哲学的なものを重んじてきたと、小沢氏は言います。「ロータリーの理想といえば、ロータリー綱領か、職業倫理のようなものです。今回の震災は、不幸ではありましたが、自分たちができることを気付かせてくれました」

ある市では震災後、4つのクラブが解散を考えていたことを小沢氏は知っています。「しかし、世界中からの寄付や支援を見て、気持ちを変えてくれました」

(週報担当：石井 彰)